

第2回研修会に引き続き、研究の視点に沿ってグループ協議が進められた。自園で実践してきたことについて話し合ったり、中間報告で各グループからの疑問点について協議を深めたりした。また助言者からは、主任としての役割や人間関係を良好にしていくために必要なことを御指導いただき、自己研鑽への意識向上につながった。

＜グループ協議 主任班1 A～Fグループ＞

- ① 少人数園、複式学級に特化した教育課程の編成（Aグループ）
 - ・小規模園の行事は、各園の実情に合わせ、子供にとって何が大切かを見極めて計画していけるとよい。保護者に理解していただきながら精選していくことが大切だと確認した。
- ② 発達支援教育の理解と保育の充実（Bグループ）
 - ・職員同士の連携が大切であり、多面的に子供を捉え、支援方法を具体的に探ることが大切であると確認した。また、保護者の思いや困り感に寄り添うことが必要だと共有した。
- ③ 「幼児期に育てたい力」、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）」の園内研修への活用（Cグループ）
 - ・子供の成長した姿を確認し合うことで支援方法が探りやすくなり、研修時間が短縮したり、「育てたい力」の冊子を活用したことで悩みが解決できたりしたことなど、研修の進め方について情報共有した。
- ④ 幼小の円滑な接続（Dグループ）
 - ・幼小の連携のためには、園からの積極的なアプローチと、行事調整時に年間の交流方法をしっかりと検討しておくことが大切だと確認できた。
- ⑤ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Eグループ）
 - ・時間外勤務の削減を目指して職員の力量を見極めながら仕事を分担したり、行事やクラス活動などを早めに見通したり、また、長期休暇を利用して業務を進めたりする等、業務の効率化について考えを伝え合った。
- ⑥ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Fグループ）
 - ・若手職員が見通しをもって保育できるように、週案の様式を見直したり、個別に声を掛け一緒に計画を立てたりするなど、園での取組について伝え合った。また、職員一人一人を尊重し、健康でいられるようメンタルケアに努めることが大切だと確認した。

主任班1 ～助言者御指導（抜粋）～

- 幼小それぞれで同じような活動をしていてもねらいは異なる。幼稚園では基礎となる体験そのものが重視され、小学校ではどんな力が身に付いたのか具体的に求められる。非認知能力を大切にしている園の取組を小学校でも学んでいけるとよい。
- 主任として園運営の要となるためには、対話に基づいてねらいを共有していくこと、保育のねらいや意図を具体的に分かりやすく説明・表現すること、日々の保育や行事の運営についていつ誰が見ても分かるように記録することを意識するとよい。
- 時代が進み、人との関わりが希薄になってきている。人間関係が一番のストレスだと感じる人もいる。悪いストレス（意欲や体調を下げる）ではなく、よいストレス（モチベーションが上がる）であると、達成感や充実感を感じやすい。いろいろな人と関わることが多い主任は、相手のためと思うあまり「あなたは〇〇すべき」と行動や考えを強いることをしがちである。相手には圧力として感じられる「あなた」を主語にした「YOUメッセージ」ではなく、「私」を主語にした「私は〇〇と思う」という「Iメッセージ」で話をする、相手は抵抗なく聞くことができ、受け止めやすくなる。また、相手の自律した思考を促すことにもつながる。

<グループ協議 主任班2 G~Lグループ>

- ① 少人数園、複式学級に特化した教育課程の編成（Gグループ）
 - ・運動会を経験し、異年齢で関わる楽しさが見られた反面、複式学級で各学年のねらいに沿って行事に向けた活動を進めていく時、年中児への負担が大きくなることが課題として挙げられ、対応策について話し合った。
- ② 少人数園、複式学級に特化した教育課程の編成（Hグループ）
 - ・少人数の学級では、子供一人一人の存在が大きい。職員も遊びに加わり楽しさを共有することも必要だが、子供の主体的な姿を考えると参加の仕方に悩むこともあり、小規模園ならではの共通の課題について話し合った。
- ③ 発達支援教育の理解と保育の充実（Iグループ）
 - ・行事の見通しのもとせ方やその日の活動を可視化した事例、集団活動への参加の工夫など、具体的な取組を紹介し合った。
 - ・園児数の減少により、支援を必要とする子が友達の姿を見て学ぶ経験は大切であるが、園児数の減少もあり、今後どのような支援が必要か話し合った。
- ④ 「幼児期に育てたい力」、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）」の園内研修への活用（Jグループ）
 - ・限られた時間の中で園内研修を進めていくために、話し合う視点を明確にしたり、時間を区切ったりして計画的に進めていくことや、話しやすい雰囲気づくりをしていくことが大切であることを共通理解した。
- ⑤ 家庭への発信の仕方や保護者対応（Kグループ）
 - ・持ち物を母国語の手紙で伝えることで保護者が理解しやすくなり、忘れ物が減ったり、子供の心の安定につながったりした取組が伝えられた。また、保護者との信頼関係づくりのための具体的な事例が紹介された。
- ⑥ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Lグループ）
 - ・複式学級が増え職員数が減ってきていることから、行事やねらいは視点を明確にし、精選していく必要があることを話し合った。また教材研究は、職員同士がいつでも相談しやすい雰囲気が大切だと確認した。



主任班2 ～助言者御指導（抜粋）～

- 子供たちの満足感につながる楽しい空間をつくるため、異年齢で遊ぶ時も学年ごとの発達段階を理解した配慮や、環境の再構成が必要である。また、教材研究をする際に、職員が相談しやすい雰囲気をつくっていくことが、主任としての大切な役割である。
- 子供、職員、保護者、地域がわくわくする幼稚園にしていくために、「リスペクト型マネジメント」について4つの視点から考えるとよい。①個性の尊重（個性を重視し、存在意義を認めていく。）②外部との協働的関わり（保護者が園のよき理解者、協力者となるようにリスペクトし、さらに地域の人材を有効活用する。）③語り合う風土（気軽に子供の姿を語り合える雰囲気づくり、ボトムアップ型のリーダーシップをとる。）④働き方改革（多様な職員に合わせた時間管理などのマネジメントをする。）
- 「分散型リーダーシップ」は、若い職員の自信につながり、主任の先生も新たな学びがあるため有効的である。また、主任としての資質を高めるためには、アンテナを高く情報収集をして、どのようなことも自分事として置き換えて考えてみる大切である。
- ライフアンドワークバランスを見直して、仕事以外の自分の時間も大切にしてほしい。